地域研究集会

第 11 回東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会
福島県の水産業がめざすところ

日時：2024 年 10 月 26 日（土）13:00～17:00

会場：現地会場とオンライン（Microsoft Teams）のハイブリッド*

現地：いわき産業創造館

〒970-8026　いわき市平字田町 120 番地 LATOV6F

共催：国立大学法人福島大学，福島県，国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所

後援：福島県漁連

コンビーナー：和田敏裕（福島大）・天野洋典（環境科学技術研究所）・早乙女忠弘（福島県水産事務所）・帰山秀樹（水産機構）・筧　茂穂（水産機構・資源研）

オンライン URL：

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=tzCltNwEI0mgLrTqozK6SpK8_3enyXhOlHm7OCwyVU5UMURQUlFVWk9VRkJIRU9UQUlLODNSSjYwMy4u

問合せ先：kakehi@affrc.go.jp

プログラム

挨拶：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）　13:00～13:10

趣旨説明：和田敏裕（福島大）　13:10～13:30

1．放射性物質濃度の推移と影響

座長：筧　茂穂（水産機構・資源研）

（1）海域における放射性物質濃度（ALPS 処理水含む）の推移

帰山秀樹（水産機構）

13:30～13:50

（2）福島県沿岸の魚類，海底土の放射性物質の動態

天野洋典（環境科学技術研究所）・鈴木翔太郎（福島県水産課）

・榎本昌宏（福島県農業総合センター）　13:50～14:10

（3）福島県産水産物の風評影響の整理と販売戦略構築支援の研究

神山龍太郎（水産機構・資源研）・宮田勉・世古卓也・

橋本加奈子・石原賢司（水産機構・技術研）

14:10～14:30

2．環境・漁獲量の変化

座長：早乙女忠弘（福島県水産事務所）

（4）漁獲量の推移　根本芳春（福島県海洋セ）

14:30～14:50

（5）常磐沖の環境・海況の変化，魚種の変化

筧　茂穂（水産機構・資源研）

14:50～15:10

3．今後に向けた取組

（6）福島県の水産業の復興に向けた取組

福島県漁業協同組合青壮年部連絡協議会

15:10～15:30

（7）福島県の水産業が目指すところ　福島県漁業士会

15:30～15:50

（休憩）15:50～16:00

4．総合討論　進行：和田敏裕（福島大）

16:00～17:00

開催趣旨：福島県沖は親潮と黒潮が混じり合う潮目の海であり，ヒラメ・カレイ類をはじめとした多種多様な魚種が分布し，常磐ものとして利用されてきた．2011 年の東北太平洋沖地震と大津波により，漁船や漁業施設等が被災したことに加え，東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴って大気中に放出された大量の放射性物質が海域や陸域を広く汚染し，漁業に甚大な影響を及ぼした．震災から 13 年が経ち，海面漁業では，漁業施設等は概ね復旧し，海産魚介類の放射性濃度も低下したことからほとんどの魚種で出荷制限が解除され，試験操業から本格操業に向けた移行期間となっている．2023 年 8 月以降，ALPS 処理水の海洋放出が複数回実施されている．ALPS 処理水の環境への影響はないと報告されている一方で，社会・経済的な影響が認められている．本集会では，福島県の水産業に関わる現状について最新情報を報告するとともに，今後の展望について水産関係者とともに討議したい．

備考：2022 年度より「三陸海域の水産業と海洋研究集会」を「東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会」として，研究集会の目的を引き継ぎつつ，より広域に話題を扱うものとする．